

令和7年度

## 保育園における自己評価 ～五条くじら小規模保育園～

今年度の評価は以下の通りでした。

実施対象者9人（対象職員9人全員から回答あり）

（評価） A,よくできている B,まあまあできている C,あまりできてない D,全くできてない

### 【 保育のあり方、乳幼児への対応 】

項目	内容	A	B	C	D	
1 健康と安全	① 登園時には、特に視診を大切に乳幼児の体調を注意して確認している。	4人 (44%)	5人 (56%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
	② 体調が悪そうな時は、静かに寝かせ検温をする等適切な処置を行い家庭へ連絡している。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
2 乳幼児の見取りと理解	① 乳幼児の話聞き、思いやサインその姿の中にある心の動きを推察し基本的欲求が十分満たされる配慮をしている。	2人 (22%)	7人 (78%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
	② ひとりの乳幼児を見ながら、視野を広げて他のこどもの様子もある程度 推察、把握することができる。	2人 (22%)	7人 (78%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
	③ 個々の乳幼児の発達や姿について、見通しをもって理解できる。	2人 (22%)	7人 (78%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
3 指導と関わり	心のよりどころとして	① 乳幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		② 乳幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		③ 乳幼児の声に耳を傾けて話を聞くようにしている。	7人 (78%)	2人 (22%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		④ こども達一人ひとりの関係を常に考えている。	5人 (56%)	4人 (44%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	遊び・活動の援助者として	① 乳幼児が遊びや活動を深めていく為に、ヒントやアイデアを提供している。	0人 (0%)	7人 (78%)	2人 (22%)	0人 (0%)
		② 乳幼児をほめたり、励ましたり、目標を持たせるような言葉かけをしている。	5人 (56%)	4人 (44%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		③ 禁止、命令、行動を急がせ、自信を失わせる言葉や態度は出来るだけ控えている。	1人 (11%)	7人 (78%)	1人 (11%)	0人 (0%)

	その他	① 乳幼児の家庭環境や成育歴等を考慮して関わっている。	4人 (44%)	5人 (56%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		② 障がい児が入園した時、個別的対応やクラスのこどもと共に育ち合える保育ができるよう考えている。	1人 (11%)	7人 (78%)	1人 (11%)	0人 (0%)
4	保育者同士の協力・連携	① クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。	7人 (78%)	2人 (22%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		② 配慮が必要な乳幼児については園全体で話し合う時をもち共通理解をして工夫しながら対応している。	7人 (78%)	2人 (22%)	0人 (0%)	0人 (0%)
		③ 他クラスや異年齢のこども達と触れ合うように、様々な保育の形態を取り入れている。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)

#### 5 保育のあり方、乳幼児への対応で出来ていると思うこと

- ・ 普段と違うと感じたことは調べたり周り共有したりして保護者へ伝達している。
- ・ 子ども一人ひとりの表情や仕草、言葉などを通して思いを汲み取り寄り添うよう心掛けた。また、一人ひとりの成長や個性にしっかり目を向けていった。
- ・ 一人ひとりに応じた言葉のかけ方や子どもの目線に立って考えること。
- ・ 配慮がいる子への対応。可能な限り関わるが、難しい時は他の保育士に任せて保育を進めていった。職員間で共有しながら一緒に関わっていった。
- ・ 異年齢の子どもたちで活動する際、年齢児に応じて対応や関わりを考えて接している。
- ・ 登園時の短い対話や連絡帳を活用し子どもの『できた!』という成長の瞬間を積極的に共有した。
- ・ 体調面等いつもと違う様子を感じた時は、周りの保育士に共有しその後検温したり変化がないか気を付けて見守るように心がけている。
- ・ 子どもたちが1日で長い時間、親と離れて過ごすため落ち着いて安心できるようスキップを取ったりしながらゆったりと関わることが出来ている。

#### 6 保育のあり方、乳幼児への対応でこれからの課題と思うこと

- ・ 子どもが体調不良時、看護師がいない為 保護者に受診するかどうか伝え方が難しい。
- ・ 登園時十分視診出来ておらず、家庭からの怪我を見落としてしまうことがあった。
- ・ 家庭環境に応じた愛着形成、また食事形態について。
- ・ 個人的な関わりが必要な子どもがいる時、他の保育士の動向を考えること。
- ・ 集団や友だちとの関わりを苦手としている子に対して、スムーズに輪に入っていけるように対応を考えていきたい。
- ・ 活動と活動の間の時間、手遊びや読み聞かせなどもっと率先して子どもたちを楽しませられる工夫をしていきたい。今やりたくない気持ちが強い時の子どもの対応の仕方。

【 保育者としての資質や能力・良識・適正 】

項目	内容	A	B	C	D
保育者としての資質や能力・良識・適正	① 保育に携わる者として、専門知識や技能を身につけている。	2人 (22%)	7人 (78%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	② 保護者との信頼関係をつくるように努めている。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	③ 仕事の手順を考えながら、効率よく率先して行っている。	3人 (33%)	6人 (67%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	④ 保育者の人間性が子ども達に影響を与えていることを自覚している。	5人 (56%)	4人 (44%)	0人 (%)	0人 (0%)
	⑤ 保育の中で子どもと関わる時に、適切な対応が行えている。	1人 (11%)	8人 (89%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑥ 乳幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている。	7人 (78%)	2人 (22%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑦ 園の消耗品や教材は、節約して使い、私用に使っていない。	8人 (89%)	1人 (11%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑧ 服装・髪型・身だしなみは清潔感のあるものを心がけ安全性にも気を付けている。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑨ 教材・教具の管理、点検、園内外の掃除や整理整頓を実行している。	4人 (44%)	5人 (56%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑩ 仕事や提出物の締め切りをきちんと守っている。	5人 (56%)	4人 (44%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑪ 他の職員の意見を素直な気持ちで聞き、自分の意見を述べることができる。	4人 (44%)	5人 (56%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑫ 必要なことは、園長や主任に報告、連絡、相談している。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑬ 上司の指示、命令には、責任をもって実行している。	6人 (67%)	3人 (33%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑭ 乳幼児や教育・保育に関する情報を日ごろから得ようとしている。	4人 (44%)	5人 (56%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	⑮ 社会の情勢や季節の変化等を感じ取る感受性を大切にしている。	5人 (56%)	4人 (44%)	0人 (0%)	0人 (0%)

1. 保育者としての資質や能力・良識・適正でよくできていると思うこと。

- ・優先順位を考えながら仕事すること。
- ・送迎時に保護者の方とコミュニケーションを取り、信頼関係を築くこと。
- ・報・連・相の徹底、分からないことはそのままにせず、周りの職員に聞くこと。
- ・行事などの奏楽を率先して行っていった。
- ・制作などやるものが決定しているものは早めに準備に取り掛かることが出来ていた。
- ・良い雰囲気の中で保育が出来るように心がけている。
- ・挨拶は明るく親しみを込めて行っている。
- ・その日の連絡事項をしっかり把握して、一人ひとりの子どもと向き合う姿勢を大事にした保育を心がけている。
- ・正職員（クラス担任）と連携しながら保育が出来ており、報告・連絡・相談をしっかりさせてもらっている。
- ・子どもたちの気持ちや伝えたい思いに、一人ひとり耳を傾けること。

2. 保育者としての資質や能力・良識・適正で課題と思うこと。

- ・忙しい時、目が届きにくいので注意していきたい。
- ・行動を促す声かけや誘導を行う際に子どもの思いに寄り添えていないことがあった。
- ・周囲とのコミュニケーション能力や体力の維持。
- ・書類や作り物等仕事が溜まってしまった際、優先順位を考えたり他の職員にどれから手伝ってもらおうか悩むことが多いこと。
- ・子どもが楽しいのは勿論だが、保育士もみんながやってよかったと楽しいと思えることがより増えていったらいいと思う。
- ・行動を急がせるような言葉かけはせず自主性を育むこと。
- ・子どもの動きや周りの保育士の動きを見ながら状況を把握して、臨機応変に対応していけるようにしていきたい。
- ・今後、発達支援士の資格を取ることで、発達に関する理解を深めたいと思っている。